

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(株)クレアメディ コ	代表者	岡本 恒夫	法人・ 事業所 の特徴	「医療・介護の原点はやさしさ」 上質な医療・介護を提供し、信頼され、選ばれる「さわやか苑」を目指し、地域医療・介護に貢献します。
事業所名	多機能ケアセンター さわやか苑長岡藤沢	管理者	清水 美佐子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	1人	1人	1人	1人	3人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価、外部評価の勉強会を4月、10月に開催する 新規利用が決まった時点から担当職員を決め、事前情報を全体に周知し利用当初から積極的に関わる 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強会を実施できなかった。故に1年を通して、改善計画を具体的に意識して取り組めなかった。 事前情報の周知、積極的な関りは実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画が具体的でなく表現があいまいで、明確な取組結果が見えてこなかった。 いつ、誰が、どのように等、具体的に記載する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善計画は職員に周知し、実施できているのか、毎月1回の多機能会議にて職員間で確認する。 運営推進会議ではご利用者様へ対応の事例を報告し、ご利用者様へどのような支援ができていているのか理解いただく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 接遇環境委員を通し毎月の自己接遇チェック、他者評価継続し接遇向上を目指す 施設全体で玄関表記、窓口を明確にする 	<ul style="list-style-type: none"> 接遇チェックを実施。ミーティング時に接遇向上の読み合わせを行う。接遇に欠ける対応は指導し、職員間で共有できた。 会議の際は玄関に表示を出した。常時、呼び鈴設置で外部の方へ迅速に対応できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 受付に呼び鈴を設置など、分かり易くしている。 取り組んだことを言われると、そうなんだろうなと思うが実際はどうなのか明確には判断できない。 雑巾の取り組みは運営推進会議でよく聞かすが、環境の工夫など他の事も報告があると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回、フロアの整理整頓を行う。 運営推進会議の際は会議メンバーの皆様にご覧いただき、評価いただく。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源、社会資源についての勉強会を5月、9月実施し職員の理解を深める 職員が地域に出向き小規模多機能の事業所を地域の方へも知ってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強会を実施できなかった。ご利用者様の事例を通して地域資源について考える機会があり、理解を深められた。 地域の行事等に積極的に参加させていただいたが、小規模多機能がどのような事業所でどんな取り組みを行っているかを知ってもらうには至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能よりデイサービスのイメージが強いが、パンフレットも見やすく、これから浸透していけば良い。 何か困りごとや相談ごとがあった場合に、事業所は相談しやすい場所になっているのか定かではない。(地域の方が実際に困った時に相談に来て下さった。さわやか苑を通じて包括に相談したケースもあった) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事参加の際は、必ず多機能職員が参加し、地域の方との関わりを持つ。 年4回は苑の取り組み、様子がわかる広報誌を発行する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 職員対象に地域資源、社会資源とはどのようなものがあるかの研修を行う 引き続き、在宅生活を支える為の資源を確認し在宅生活を継続できるように支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ご利用されている方の事例を通して地域資源について考える機会があり、理解を深められた。実際に地域の方へご利用者様のより良い支援のためにご協力をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強会を実施できなかったかもしれないが、実際に利用されている方の事例を通して職員で話し合い、理解を深められたと思う。 ご家族様のアンケート結果で外出しているのか等がわからないといった意見が多かったが、外に出ていることをご家族にも知ってもらう機会が増えれば良いと思う。 利用者本人が住んでいる地域の方を交えた会議は必要に応じて行う。町内会長にもご相談すると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別担当職員にてアセスメントを行い、生活歴や地域資源を把握し、ケアプランに反映する。 年4回は苑の広報誌とは別に小規模多機能だけの取り組みや活動が写真を交えて具体的にわかるような広報誌をご家族様等に配布する。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議には現場職員にも参加できる機会を作り地域交流の意図を理解してもらう 運営推進会議内で施設と地域の情報を共有し介護に関する困り事を聞き関りを強化していく 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議には現場職員の参加がほぼできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議に現場職員の参加が一回のみだった。今後は毎回参加していきたい。 地域の困りごとなど町内会長様と情報共有していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議には現場職員が1名必ず参加し、地域との関わりの重要性を理解してもらう。 運営推進会議では毎回、サービス評価項目A～Fについての進捗状況を報告し、意見をいただき改善していく。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練年間計画は4月の運営推進会議内で発信 地域の防災訓練計画の情報を確認し地域の防災訓練に参加する 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練は年間計画通りに行えたが外部への発信が乏しく、地域の方の参加があまりなかった。 地域の防災訓練には事前に確認していなかったため、参加できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練を運営推進会議に合わせる。日程調整が難しいのであれば、事前に運営推進会議メンバーの皆様へお伝えする。第三者が参加することで緊張感を持って行える。 災害時に頼りにはなると思うが、何ができるのか、どこまで助けられるのか強み、弱みを明確にしておく。備蓄品がどれほどあるのか、どこにあるのか等、全職員が把握しているようにしておく。 地域でも防災訓練を行っているということなので、参加できるように町内会長様と連絡をとっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練の日程が決まり次第、事前に運営推進会議メンバーの皆様へ参加いただけるよう発信する。参加された場合は評価いただく。 町内の防災訓練に町内会長様と連絡を取り、職員参加させていただく。参加を通して宛として何ができるか情報を得て、検討し、マニュアルに反映させる。